

人口減少のなか予算微増 新発田は堅実な予算編成

3月26日(水)、新発田市議会本会議において、令和7年度の予算案が賛成多数で可決された。

二階堂市長は予算案の概要説明で「コロナ禍が過ぎ去り、新たに訪れている時代の荒波を乗り越えるために(中略)果敢に挑戦していくための予算」と胸を張り、「物価の高騰や人件費の上昇が財政を圧迫する中でも、ゼロシロリングや事業の選択と集中など(知恵を絞って、汗をかいて捻出した一般財源により)新規事業を盛り込むとともに、賃上げによる委託料等の増額にも対応するため必要な予算を配分した」と続けた。

総額は467億円で前年度比に比べて3億2千万円、0.7%の微増である。しかし、令和6年度の国の補正予算に呼応して前例した約15億4千万円を含めると、総額482億4千万円で前年度に比べて14億3千万円、3.1%の増である。注目すべきは市の借金である市債が約31億6千万円と前年比に比べて約1億7千万円減っていること。市の貯

金にあたる財政調整基金残高は令和6年度の決算見込で38億円をキープしている。いわゆる「健全財政」といえる。

しかし、経常経費比率は90%を超えた状態が続いていて、いわゆる地味に回す資金が極端に少ない(理想は70〜80%という)。投資に回す資金がなければ新規事業はやりにくくなり、企業や自治体は苦境である。

収入(収入)については市税が約26%、国からの地方交付税が約27%、国・県支出金が約23%となっている。市税収入は少しずつ増えているものの全体の4分の1にすぎない。また、地方消費税交付金収入が約24億円(5.2%)あり、仮に消費税をなくするとその分がなくなるという大穴めするの、国会等で問題となっている所である。

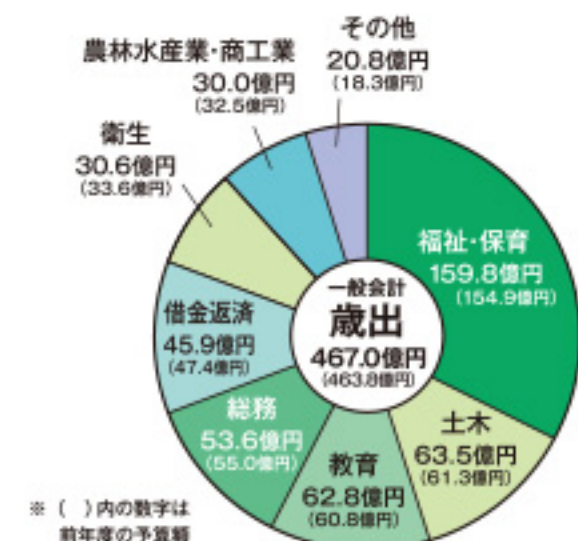
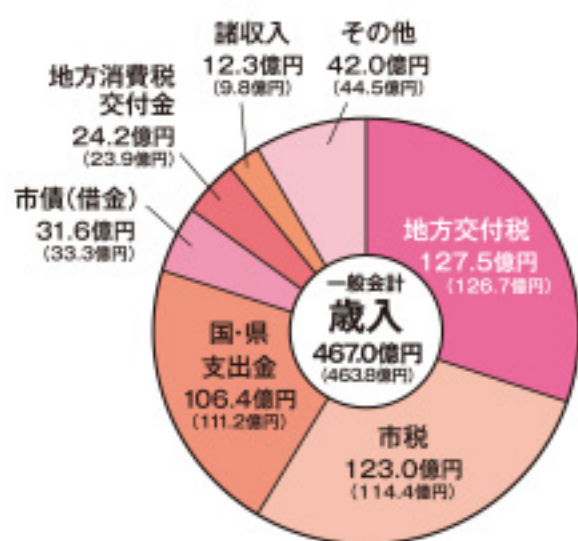
歳入(支出)については、市の発表に従い、まずは「目玉事業」次に市長の言う「4つの柱」を見ていく。

目玉事業
◎脱炭素と快適性を両立した大峰保育園今

金に当たる財政調整基金残高は令和6年度の決算見込で38億円をキープしている。いわゆる「健全財政」といえる。

令和7年度の予算

■一般会計 467億円(前年度比0.7%増)



※ () 内の数字は前年度の予算額

年12月竣工/金家の市立大峰保育園は年末の竣工を目指して工事中。快適な環境を実現しつつ、建物で消費する年間の一次エネルギー収支ゼロを目指した画期的な建物(2E B 認証取得済み)国の補助金あり)になる。高性能断熱材・複層ガラス窓・高効率エアコン・LED照明・太陽光発電設備などのほか、地元産の材木を使って極力輸送燃料を減らすなど、最新の省エネ技術が結集している。総事業費だが、予算は今年度8億5千万〜100万円。市長は脱炭素社会の実現に積極的に取り組んでいるものの、その意義はまだまだ伝わっていない。本紙で追加取材する。

◎加治川有機資源センターで農産物振興現/5年ほど前に計画された加治川有機資源センターの改修が完了。食の循環に欠かせない堆肥製造・スタディ・ツーリズムの拠点として整備された。懸念だった堆肥のベレッタ化も準備できて、今年はオートメーション化と小袋販売に向けての最終的作業を福祉作業所に依頼する。今後の課題は堆肥の「有機JAS」の取得だが、これができれば市内のコメ・野菜のオーガニック化に弾みがつく。

健康長寿
◎介護人材確保対策事業/介護現場での人手不足は深刻だが、その人手不足解消に向けて介護人材の研修事業を新発田に実施する。
◎歯科健診・予防事業/乳幼児健診での無料フッ化物塗布、65歳以上歯科健診でのオーラルフレイル指導を追加する。

◎障害者地域生活支援事業/障害者等への相談支援・意思疎通支援・市民後見人育成支援、日常生活用具給付の品目を拡充する。

少子化対策
◎母子健診事業のうち5歳児健診の実施/新たに5歳児健診を集団方式で実施する。
◎母子保健活動事業のうち産後ケア拡充/産後1年以内の母子に対して、宿泊型・通所型・訪問型を組み合わせた支援を実施する。また、多胎児利用加算を新設する。

◎妊婦支援給付事業/妊娠届出時に5万円、出産後に5万円給付する。

産業振興
◎青年就業支援事業/青年就業者への経営開始型資金及び新規就業者育成対策支援金を交付する。
◎有資格者対策事業/インシ・サル対策実施、市街地に出張するコマ対策を強化するほか、シビエリ活用調査を開始する。

◎地域経済循環創造事業/月岡温泉地内でサウナを核とする滞在型観光事業を新規に創設する事業者に補助する。
◎ももクロ春の一大事2025開催事業/日本全国へのPRと観光客増加が目的。

◎住宅リフォーム支援事業/住環境向上・地域経済活性化のため、住宅リフォーム経費を補助、中古住宅リフォーム枠を拡充する。

教育の充実
◎いじめ防止対策事業/いじめ・虐待などから自分を守る教育プログラムを、対象学年を見直し実施する。
◎小中学校教育扶助事業/就学困難な児童生徒の保護者に学用品費や給食費を助成する。通級指導教室に係る通学費を支援する。

その他
◎街なみ環境整備事業/新道掛蔵エリアの美化化を行い、景観整備を実施する。
◎交通安全対策事業/交通安全教育・思想を普及するともに、自転車用ヘルメット購入費用を助成する。

蟻塚税務会計事務所 新発田市大町 7-1-6 TEL.0254-23-2222	茨木建設(株) 新発田市長堀 284-1 TEL.0254-23-6851
飯豊電設工業(株) 新発田市豊町 2-18-5 TEL.0254-24-2134	新発田ニユー プラザホテル 新発田市豊町 1-9-29 TEL.0254-26-3131
(株)伊藤組 新発田市豊町 1273-1 TEL.0254-22-4176	新発田建設(株) 新発田市富郷 1942 TEL.0254-27-5711
(株)イノウエ 新発田市新栄町 1-3-2 TEL.0254-22-4056	しばたバッカーズ(株) 新発田市奥山神保 427 TEL.0254-22-2334
駅前竹内旅館 JR 新発田駅前真正面 新発田市豊町 1-2-1 TEL.0254-22-2465	島津印刷(株) 新発田市富郷 1419 TEL.0254-27-2101
SODデザイン 高橋昭志 新発田市豊町 2-17-26 TEL.0254-24-5121	(株)新和組 新発田市米倉 1287 TEL.0254-28-5011
小野寺税務会計事務所 新発田市大町 2-7-7 TEL.0254-22-3497	大進電業(株) 新発田市佐々木 1895-8 TEL.0254-21-5000
(株)下越道路 新発田市新富町 1-1-5 TEL.0254-23-2296	(株)大通 新発田市舟入町 1-12-5 TEL.0254-26-1191
(株)クサカベモータース 新発田五十公野 4838 TEL.0254-22-6311	フジマ舗道(株) 新発田市豊町 4197-3 TEL.0254-26-5030
(株)こじまホールディングス 新発田市中央 3-5-12 TEL.0254-26-3361	扶桑畜産(有) 新発田市米倉字島越 4686-1 TEL.0254-28-5136
小林税務会計事務所 新発田市中央 5-4-27 TEL.0254-22-2705	山田建設(株) 新発田市大友 3856 TEL.0254-26-0700
小柳産業(株) 新発田市八幡新田 416 TEL.0254-22-7010	(株)安田組 新発田市豊町 4-3-39 TEL.0254-24-1761

介護老人 福祉施設 陽だまり苑 新発田市間田 1746-1 TEL.0254-20-3800	(株)オオヌマ 新発田市五十公野 3968 TEL.0254-22-2223
複合型 福祉施設 コンフィ陽だまり苑 新発田市豊町 1-10-38 TEL.0254-24-1111	尾田建設 新発田市豊町 47 TEL.0254-22-4200

「生」
かして

旬
を

割烹
あまや

新発田市御幸町1丁目1の1
☎(0254)22-2102(代)

堀部安兵衛

生誕350年
記念出版

もりいくすお漫画

『熱血 堀部安兵衛物語』
(A4・36頁)
1,000円+税

富澤信明論文集

『実録 堀部安兵衛』
(A5・360頁)
2,000円+税
— 異国から読み解く市田蔵 —

発売所

高木書店
〒957-0052
新発田市大手町 1-2-13
☎0254(22)3241

新発田市観光協会
〒957-0055
新発田市豊町 1-2-11
☎0254(26)6789

柏崎刈羽原発の県民投票、 県議会で条例制定が否決

柏崎刈羽原発の再稼働について、原発県民投票条例制定の署名が集められた。審査の結果、有効署名は「県内有権者の50分の1」の4倍近くの14万3千196だった。

条例制定は県議会の仕事であり県議会での議論の結果、採決では52人中条例制定反対が36人、賛成が16人で否決された。

条例が制定されて県民投票が行われれば結果は異なっていたかもしれないという意見もある。また、県議会に参考人として招致された新潟大学の今本啓介教授は原発が立地する柏崎市と刈羽村の意向を優先すべきとし、原発から離れて住む住民が自分事として投票するのは困難とした。一方、新潟国際情報大学の越智敏夫学長は新潟日報紙上で「いずれ（知事）自らの判断について『信を問う』と明言している。その時に県民一人一人が判断すればいい」と語っていた。4月17日（木）に行われた県議会での判断以前に3月13日（木）に行われた新発田市議会の賛成と否決を掲載する。

署名及び条例制定に対する活動については県議会で議論を注視し、見守る（市長）

【三母高志議員の代表質問】

花角新潟県知事は柏崎刈羽原発の再稼働について「県民に信を問う」と述べてきたが、具体的な方法や時期などを明確にしていない。

昨年（令和6年）10月28日に始まった「柏崎刈羽原子力発電所稼働の是非を県民投票で決める署名活動」は、本年2月1日に署名総数が15万筆を超えたと報道で明らかになった。県民投票実施には県議会の条例制定が必要であるが（中略）この条例制定は新発田市民にとっても重要で、地方自治体の民主主義の手続きとしても尊重されるべきと考える。（中略）市民の生命と安全を守る責務を有する市長として、署名活動並びに条例制定についての見解を問う。

【二階堂馨市長の答弁】

国は柏崎刈羽原発再稼働について、県例ともいえる関係会議を開催し、原子力災害時における避難道路等の整備への着手や再稼働等に係る住民説明会を県内各市町村で開催するなど再稼働に向けて一層注力していることが連日、報じられている。

県は花角知事が再稼働の判断材料とする「県の技術委員会による柏崎刈羽原発の安全性に関する報告書」、「原子力規制委員会による原子力発電所の運用に関する検討チームの議論のまとめ」などが今春に出るようになりながら、「県民に信を問う」ための手法・時期は明確に示していない。

市民団体が実施した「柏崎刈羽原子力発電所稼働の是非を県民投票で決める署名活動」は約15万筆の報道、当市でも5千258筆の有効署名があったと担当課から報告を受けた。（中略）県で「再稼働の判断材料」を検証・検証し、責任をもって県民に説明することが先決かつ重要だ。

署名および条例制定に対する活動については、民意を行政に伝える法令に基づいた手法であるので、当該条例の制定に係る県議会での議論を注視し、見守りたい。

柏崎刈羽原発再稼働は国・県などで話し合うべきで、見解を述べる立場になじ（市長）

【宮村幸男議員の代表質問】

政府は第7次エネルギー基本計画を閣議決定した。同時に温室効果ガスについては世界的に低い目標を国連に提出した。福島第一原発事故で原発を低減すると約束したが、今回「最大限活用」へ180度転換した。全部の原発が稼働すれば60年稼働原発や建て替えも必要になるだろう。原発はトイレなきマンションと呼ばれ、安全等に問題を残している。核廃棄物処理に予想不可能な

血税が必要になるだろう。福島第一原発周辺は農業もできず、住めない土地になっている。

県技術委員会の報告書が3月21日に県知事に提出された。22項目のうち「東電の適格性」「耐震評価」「想定を超えた事象への対応」「テロ対策」の4項目は意見が一致せず、「原子力規制委員会の判断を否定するものではない」とした。この4点は県民が最も知りたい点であろう。長岡市長や上越市長から分りにくいと指摘された。県技術委員会委員長は「それは仕事の対象外で県民に考えてもらいたい」と語った。安全・安心には責任が持たないとの結論である。

原発再稼働は県民の命や暮らしにおける大問題だ。原発を稼働しなくても電力不足にはならず、安心安全な暮らしと豊かな経済・農業を守るため、再稼働中止と考えるのが妥当と思う。市長の考えはどうか。

【二階堂馨市長の答弁】

福島第一原発の事故は未だに収束が見えず、近隣に居住していた多くの方が故郷

へ戻れない状況が続いており、このような事故は二度とあってはならないと強く願っている。一方、第7次エネルギー基本計画に掲げのとおり、今後DX・GXの進展によって電力需要が増加する見込みである。限りある化石燃料への過度の依存からの脱却、近年の異常気象の原因ともされている脱炭素化を推進する観点から、今後の経済の発展や、将来を担う子供たちの地球環境のためにも、積極的に取り組む必要があると考えている。

いずれにしても柏崎刈羽原発再稼働については、まず国と県、立地自治体である柏崎市・刈羽村及び東京電力ホールディングス（株）において、十分に協議をしてもらい、その上で近隣自治体から理解を得ていく必要があると認識している。現時点で私の立場で再稼働を述べるべきではない。

またDX・GXデジタル技術の浸透によって仕事を効率化、暮らしをより良くする点も、GX・GX温室効果ガスを発生させる化石燃料から太陽光・風力などのクリーンエネルギーを利用した発電に転換すること。

五十公野・下新保の 竹の子祭りが大好評

5月10日（土）・11日（日）の両日、午前9時半から五十公野・下新保の集落開発センターで第3回竹の子祭りが開かれた。

テントの下では朝顔の竹の子、竹の子缶詰が並べられ、飛ぶように売れていた。販売に当たっていた清野亮一さんは「生で食べられるほど柔らかくて、アクがないのが自慢です。置いておくエグミが出るかもしれないので、帰ったらすぐに湯がいてください」と丁寧に説明していた。竹の子は小ぶりのものが300円からと驚くほど高く、集落開発センターの中では竹の子ごはんを買い求める人もいた。また、お宝・手づくり市も大人気だった。



第3回竹の子祭りに、早起する人の列が並んだ

板金折り紙教室

弊社オリジナルの型紙を使い、銅板・真鍮板で折り紙をします。初心者も大歓迎!!
ビカビカで高級の特性を活かした折り紙は見る人を驚かせる出来栄です。

6月27日（金）・28日（土） 祝い鶴
次回予告 7月25日（金）・26日（土） ペンギン

時間/13:30~15:30 参加費/1,000円
定員/各日8名（申込み受付順） 持ちもの/手袋・内履き
場所/海シヤライズ2F（新発田市切梅618）
お申込み・お問い合わせ/TEL 28-7183（担当：池田）

さまざまな住まいのご相談承ります!

S-RISE シヤライズ
各種内外装リフォーム/建築板金（屋根・各種外壁・雨樋工事）・大工・土木・ブロック・造幣・塗装・エクステリア・採光（スカイライチューブ他）
〒959-2303 新発田市切梅618 TEL 0254-22-6015（代）

とんとん市場の大創業祭

日頃の感謝を込めて!!

野菜等の特売!! 詰め放題!!

開催期間 5/30（金）31（土）6/1（日）

TON TON

●新発田店 9:00~18:00
新発田市荒町1480 ☎0254-20-2229

●松崎店 9:00~19:00
新潟市東区新松崎1-6-14 ☎025-274-2229

地図: 新発田IC、第四銀行、新発田南高校、豊清病院、新発田駅、イオン、とんとん市場 新発田店、小崎屋 松本館、極楽湯、カワチ、とんとん市場 松崎店、イオン、一日市IC、海老ヶ窪IC、新発田、阿賀野川、R7、中条、R7

介護は、 いつかみんなが関わること

介護の知識と技術は、人生のどこかできっと役立つ。
その にも 備えて、今学びませんか？

介護員養成研修事業

介護職員初任者研修 受講生募集

毎週

土曜日開催

初回 8月2日(土) 9:00~17:00

定員12名

介護は、学べば学ぶほど、人を想う力が深まる尊い仕事です。一步を踏み出すあなたを、私達が全力で応援！本講座では、介護職員初任者研修の資格を半年で取得可能です。

介護について学ぶ

介護施設への就職や将来の家族介護に備えて、実践的な力が身につきます。



ベテラン講師陣！

介護福祉士や看護師、介護支援専門員等、現役で活躍中の16名の有資格講師が学びを応援！



会場 陽だまり苑ふえりあ

受講料 35,000円
(税込み・テキスト代込)

研修期間 令和7年8月2日~12月27日
毎週土曜日 9時~17時まで

対象 通学可能な方であれば
どなたでもお申込みいただけます。

研修内容 ・介護における尊厳の保持、自立支援
・老化の理解 ・認知症の理解
・こころとからだのしくみと生活支援技術 他

申込方法 右記QRコードから または
お電話にてお申込みください。



社会福祉法人いじみの福祉会

陽だまり苑ふえりあ 総務課

〒957-0062

新潟県新発田市富塚町2-4-13

☎0254-20-8283



真珠まりこ Mariko Shinju 絵本原画展

2025

4.22(火)→6.29(日)

開館時間/午前9時~午後5時
(入館券の販売は午後4時30分まで)

休館日/月曜日(祝日開館、翌火曜日振替休館)

入館料/一般・大学生550円、高校生230円、小・中学生120円
(有料入館者20名様以上は団体料金440円)

※障がい者手帳、療育手帳をお持ちの方は無料(受付で手帳をご提示ください)

主催/新発田市、新発田市教育委員会、落谷虹児記念館特別協力/講談社、白泉社



4月29日(火・祝)
①14:00~②15:00~
会場:落谷虹児記念館
事前予約不要。入館券をご購入の上、
会場へお越しください。

真珠まりこさん
ギャラリートーク



令和7年度
ももいろ
春季通常展

新発田藩の 歴史資料

令和7年 1階展示室・入場無料

4/5[土]~6/17[火]

開館/9時~17時

月曜休館(月曜日が祝日の場合はその翌日)

春季通常展の中で令和3年3月に新潟県指定文化財となった「新発田藩資料」約5千点のうち、代表的な資料も公開します。

●ギャラリートーク
当館職員による展示解説

日時/6月7日(土)
11:00~11:30 終了予定
13:30~14:00 終了予定

※事前申込不要。当日1階展示室へお越しください。

1階 小展示室2

蔦屋重三郎と 錦絵の技法

2025 年大河ドラマ「べらぼう」の主人公として注目される屋重三郎と、当時の錦絵の制作技法をご覧ください。



新発田市立歴史図書館 新発田市中央町4-11-27 ☎0254-24-2100

〒957-0063 新潟県新発田市中央町4-11-7

落谷虹児記念館

TEL&FAX 0254-23-1013